

# 大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 北海道大学

## 【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(I))

人口・活動・資源・環境の負の連環を転換させるフロンティア人材育成プログラム

## 【プログラムの目的・養成する人材像】

ASEAN地域における人口・活動・資源・環境(PARE: Populations-Activities-Resources-Environments)の負の連環の解決を担うフロンティア人材育成のため、本学とインドネシア、タイの6パートナー大学(カセサート大学、ガジャマダ大学、タマサート大学、チュラロンコン大学、バンドン工科大学、ポゴール農科大学)がPARE大学院教育コンソーシアムを形成し、国際連携教育システムの構築を図ることを目的とする。PAREの負の連環の解決に必要な不可欠な能力として定義した4つの力(フィールド研究力、多様性容認力、開拓力及び課題解決力)を備え、ASEAN地域の発展に主導的な役割を担うことのできる人材を養成する。

## 【構想の概要】

PARE大学院教育コンソーシアムにおける協働教育を通じて、分野横断的教育の質の保証、フィールドとラボの教育連携モデルの形成及び異分野専門家集団PARE同窓生ネットワークの形成を促し、もってアジアのフィールドにおいて同地域の発展に資する人材の輩出及びネットワーク形成を図る。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○12月4日に、「ASEANと日本における教育連携システムの発展を目指して」をテーマに教育交流研究会を開催し、大学院(修士課程)熱帯水産学国際連携プログラムをタイのカセサート大学等と共同で運営している鹿児島大学水産学研究院との間で、意見交換を行った。

○「学生のモビリティ向上の課題とプログラムの広報」をテーマに、野村証券研究所の北村倫夫氏を講師として、第4回合同ファカルティデベロップメント(FD)を開催した(2月18日)。

○7月にレディング大学(英国)、8月にトゥールーズ第3ポール・サバティエ大学(フランス)、10月にメイン大学(米国)、11月にオハイオ大学(米国)からトップクラスの教員を招聘し、英語で共同講義を行った。



〈レディング大学教員による共同講義〉

## ■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

### ○ 平成27年度実施の交流プログラムの内容

すでに構築したPARE大学院共同教育カリキュラムの講義体系に沿い、交流プログラムを以下のとおり実施した。

・「PARE基礎論I, II, III(各1単位)」を本学で開講し、本学および海外のパートナー大学の学生計168人が受講した。全科目について、電子教材を用いたインターネット上での講義の事前受講とディスカッションを中心とした講義を組み合わせ実施した。

・「PAREショートプログラム(3単位)」を、「PAREの連環:土地、水、食、エネルギー資源の持続的利用と管理」というテーマで、北海道(平成27年8月25日～9月8日、15日間)、およびタイ(平成28年3月7日～21日、15日間)で開講し、本学およびパートナー大学の学生計71人が受講した。各ショートプログラムの最終日には報告会を行ない、7大学の教員で共同評価を行った。

・本学およびパートナー大学が提供する「PARE発展科目」「PARE専門科目」を46名の学生が受講し、単位を取得した。



〈平成27年度ショートプログラム @タイ〉

### ○ 平成28年度に向けた準備状況

「PARE基礎論(I～III)」の開講日程の調整を行なうとともに、新たに開設する「PARE基礎論IV」の準備を開始した。平成28年8月30日～9月13日に北海道で、平成29年2月14日～28日にインドネシアで「PAREショートプログラム」を開講することを決定した。「平成28年度履修の手引き」(日本語・英語)、募集チラシ(日本語・英語)を作成、新入生用に配布の準備を行った。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	17	3	24	26	30
学生の受入	18	40	72	73	30

注)H24～H27は実績、H28は計画

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

・タイの「スプリングスクール2016」に、本学より18名(内正規留学生7名)派遣した。

・インドネシアのポゴール農科大学に2名、タイのカセサート大学に1名、タマサート大学に1名、チュラロンコン大学に2名の学生を派遣した。また、学部生用プログラムの開発のため、ポゴール農科大学に学部3年生2名を試行的に派遣した。

### ○ 外国人留学生の受入れ

・本学で開講したサマースクールに学生計33名を受入れ、また学生40名を本学の特別聴講学生として受入れた。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

・「PAREインターンシップ」科目を新設した。また、インドネシアやタイに進出している企業や、同企業を支援している金融機関等と面談時には、本事業のパンフレットを配布した。また、インドネシア・タイの受入先大学を通じ、同大学と関連の深い機関・企業等の紹介を受け、学生を派遣した。

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

・北海道大学がホストとなり開催した第3回日本・インドネシア学長会議の分科会(11月5日)において、ポゴール農科大学、バンドン工科大学、ガジャマダ大学の3大学が共同でPAREプログラムについて発表した。